

福祉施設における車椅子輸送車両の使用実態調査について

自動車安全研究領域

福嶋 隆

松島 和男

岡田 竹雄

1. まえがき

車椅子乗員を車椅子に載せたまま輸送する車椅子輸送車両の多くは、専用ベルト等で車椅子や乗員を固定するものであるが、乗員自身は固定に手間どる等のため、乗員シートベルトを装着しない状態で走行していることが多い。

このような状態で、急発進時、急ブレーキ時、急ハンドル時、衝突事故等で、乗員が車椅子から放出され障害を負う等の重大な事故が発生するおそれがある。

そこで、筆者らは、福祉施設（特別養護老人ホーム等）における車椅子輸送車両の使用実態を把握するため、東京都多摩地区 25 ヶ所の福祉施設等で使用している車椅子輸送の実態について、アンケート調査を実施したので、その結果を報告する。



2. 調査方法

車椅子輸送車両を使用している東京都多摩地区の特別養護福祉施設の 25 施設等を訪問し、輸送車両の所有台数、種類、車椅子の固定方法および輸送中の事故の有無等について、表 1 に示すような調査項目でアンケートを実施した。

なお、このアンケートは調査項目の 1 及び 2 については施設毎に回答をもらった。なお、調査項目 3～8 及び 10、12、13 は普段かかわっている職員（61 名）、調査項目 9、11 は施設職員全員（160 名）を対象に回答をお願いした。また、図 1 は車椅子輸送車両の積載例を示す。

3. 調査結果

アンケート調査の結果を図 2～図 5（調査項目 1）及び表 2～表 14（調査項目 2～9、11～13）に示す。

なお、質問 10 の輸送中、危険な事に遭遇したことがあるかという質問に対しては、 の急ブレーキを

かけたら、車椅子の乗員がずれたり転げ落ちた。と答えた方が 2 件で、車椅子が移動したり転倒した。と答えた方が 1 件であった。

また、質問 15 に対するコメントとしては下記の 2 件である。

- ・ 質問 11、12 の乗員用シートベルト装着及び車椅子の固定については、安全性が確保されるのであれば簡素化を望む。
- ・ 車椅子が積載位置が最後部であり、走行中の揺れを受けやすく、又、車椅子を利用する人は身体的にも弱者であり、とっさの判断(防御)が出来ないので安全性について強く望みます。

なお、施設職員全員（160 名）を対象に調査を実施したため、調査項目全般に対して答えていただいた方が 61 名で、あとの 99 名は車椅子輸送に普段かかわっていないことが分かった。

表1 車椅子輸送時における乗員保護に関する調査項目

1.1	輸送車両は、何台ありますか。	台		
1.2	大型バス(30人乗り以上)	台	中型バス(29人乗り以下)	台
	マイクロバス(15人乗り以下)	台	ワゴン車(10人乗り以下)	台
1.3	～のバスには、車椅子が何台固定出来ますか。			
		台	台	台
1.4	輸送車両は、どなたが運転されますか。			
	指定された者		指定者なし	
2.	指定された運転者は何人いますか。			人
3.	車椅子固定方法は、どなたに教わりましたか。			
	車両納車メーカ	車椅子メーカ		先輩等
4.	現在の固定方法は簡単ですか。			
	簡単	普通		難しい
4.1	難しいと答えた方にお伺いいたします。			
	固定方法が複雑	固定しづらい		力が要る
4.2	固定終了後、再度点検しますか。			
	する		しない	
5.	走行中固定した個所が、緩んだり外れたりした事がありますか。			
	ある		ない	
5.1	緩んだり外れたりしたことがあると答えた方にお伺いいたします。			
	しょっちゅうある	何回かある		たまにある
6.	輸送時には、車椅子に付き添い人が付きますか。			
	付く		付かない	
6.1	付き添い人が付くとお答えになった方にお伺いいたします。			
	付き添い人が居ないと走行中は常に危険の為、任意に付いている。			
	付き添い人が付くように決まっている。			
6.2	付き添い人はどのような体勢で乗車してますか。			
	座席に座る	特製の椅子に座る		車椅子に掴まって座る
7.	車椅子の固定が、誰にでも簡単に出来る事がよいですか。			
	大いに望む	普通		少し望む
8.	現在車椅子輸送車は、毎日走行しますか。			
	毎日	時々		たまに
9.	車椅子輸送車の行き先はどちらですか。			
	病院又は診療所	他の施設		その他(自宅送迎等)
10.	輸送中危険な事に遭遇した事が有りますか。次の幾つかの問いにお答えください。			
	後ろの車椅子に気をとられて追突をしてしまった。			
	急発進をしたら、車椅子の乗員がリヤガラスにぶつかった。			
	急ブレーキをかけたら、			
	・車椅子の乗員がずれたり転げ落ちた。			
	・車椅子が移動したり転倒した。			
	ハンドルを切ったら、			
	・車椅子の乗員がずれたり転げ落ちた。			
	・車椅子が移動したり転倒した。			
	車椅子の脇に掴まっていた付き添い人が怪我をした。			
11.	今後車椅子の乗員用シートベルトの装着が簡素化された方が良いと思いますか。			
	望む	今ので良い		わからない
12.	車椅子の固定も簡素化にされた方が良いと思いますか。			
	望む	今ので良い		わからない
13.	現在使用している輸送車両を使い易いように改造しましたか。			
	改造した	改造しない		
14.	改造したと答えた方にお聞きします、具体的にどの部分を改造したのかお答えください。			
15.	その他何かきずいた点など、ご意見が有りましたら何でもけっこうですからお答えください。			

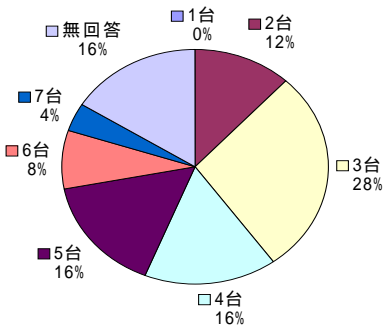


図2 施設保有台数 (調査項目 1.1)

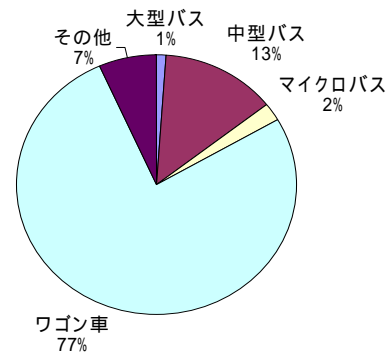


図3 車種別保有状況 (調査項目 1.2)

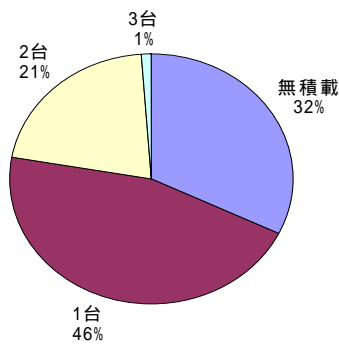


図4 車椅子搭載台数 (調査項目 1.3)

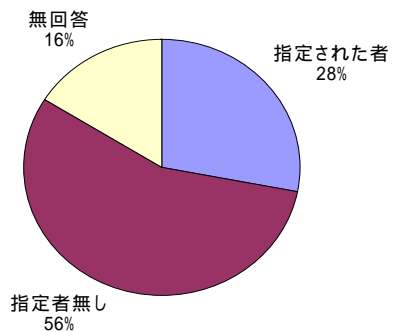


図5 運転者の指定状況 (調査項目 1.4)

表2 施設別の運転者指定人数 (調査項目 2)

運転者数	件数
4人	1
5人	2
10人以上	4
合計	7

表5 固定終了後再度点検するか (調査項目 4.2)

回答	回答数
する	46
しない	7
わからない	8
合計	61

表3 固定方法はだれに教わったか (調査項目 3)

回答	回答数
車両納車メーカー	23
車椅子メーカー	0
先輩等	25
わからない	13
合計	61

表6 走行中に緩んだり、外れたりした事がある (調査項目 5)

回答	回答数
ある	4
ない	44
わからない	13
合計	61

表4 固定方法は簡単か (調査項目 4)

回答	回答数
簡単	20
普通	30
難しい	8
わからない	3
合計	61

緩んだと答えた方 (調査項目 5.1)

回答	回答数
しょっちゅうある	0
何回かある	1
たまにある	3
合計	4

難しい理由 (調査項目 4.1)

回答	回答数
固定方法が複雑	5
固定しづらい	2
力が要る	1
合計	8

表7 輸送時に付き添い人が付くか
(調査項目6)

回答	回答数
付く	40
付かない	8
わからない	13
合計	61

付き添い人が付くと答えた方
調査項目6.1)

回答	回答数
任意に付いている	17
決まっている	23
合計	40

表8 付き添い人の乗車体制
(調査項目6.2)

回答	回答数
座席に座る	47
特製の椅子に座る	0
車椅子に掴まって座る	3
わからない	11
合計	61

表9 車椅子の固定が簡単にできる
(調査項目7)

回答	回答数
大いに望む	44
普通	5
少し望む	0
わからない	12
合計	61

表10 車椅子の輸送は毎日か
(調査項目8)

回答	回答数
毎日	22
時々	21
たまに	3
わからない	15
合計	61

表11 車椅子の輸送先 (調査項目9)

回答	回答数
病院	100
他の施設	10
その他	50
わからない	0
合計	160

表12 車椅子乗員用の
シートベルトの簡素化(調査項目11)

回答	回答数
望む	90
今ので良い	49
わからない	21
合計	160

表13 車椅子固定の簡素化(調査項目12)

回答	回答数
望む	37
今ので良い	12
わからない	111
合計	160

表14 輸送車両を使い易いように改造したか
(調査項目13)

回答	回答数
改造した	1
改造しない	60
わからない	99
合計	160

4.まとめ

以上の調査結果をまとめると、25ヶ所の施設での車両保有台数は90台(1施設あたり3.6台)であり、内車椅子輸送用は61台(1施設あたり2.4台)保有していた。

また、固定方法が難しいと答えた方が8名と少数ではあったが、調査項目7での車椅子の固定が簡単にできることを望むと回答した方が44名、調査項目12での車椅子固定の簡素化を望む方37名、調査項目11での乗員用シートベルトの簡素化を望む方90名と多かった。

これらのことから、今年度から、より確実に安全性を確保するための車椅子乗員の車椅子と乗員の固定の簡略化、簡素化についての研究を開始した。

今後、さらに車椅子輸送利用者について、一般の乗員と同等の安全性を確保する観点からの研究を進めて行く予定である。

最後に、本アンケート調査の実施に際しご協力頂いた特別養護老人ホーム、社会福祉法人の職員のかたがたに謝意を表します。